

# 新型コロナウイルス感染症に立ち向かう「神奈川モデル」

○前田 光哉（神奈川県健康医療局長）

## 1 神奈川県の新型コロナウイルスとの闘い

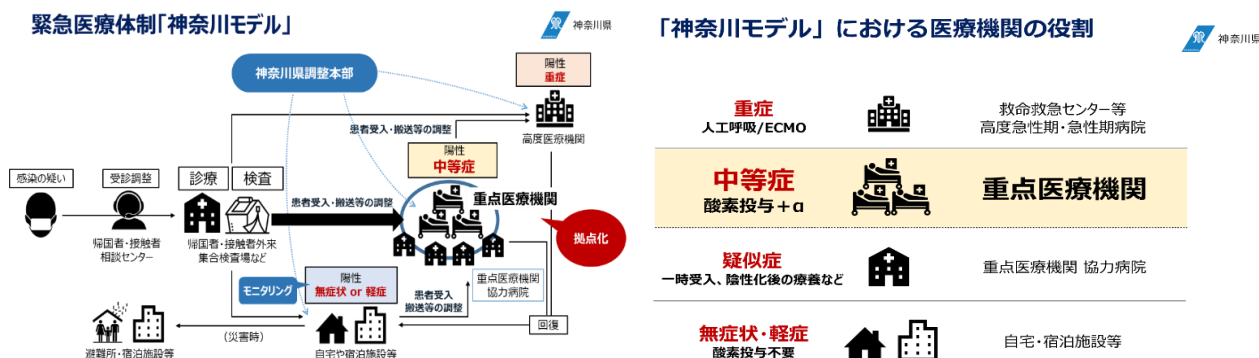
2020年1月15日、国内初の新型コロナウイルス陽性者が神奈川県内で確認された。また、2月3日に横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」で集団感染が確認され、患者搬送に対応するなど、本県では、全国に先駆けて新型コロナウイルスとの闘いが始まった。2月13日には国内初の新型コロナウイルス死亡者を確認し、以降、県内で新型コロナウイルス陽性者が引き続き確認されているところである。

## 2 医療崩壊を防ぐ新たな医療提供体制「神奈川モデル」の構築

「ダイヤモンド・プリンセス号」では、2月5日に乗船者10名の陽性が確認され、神奈川DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣を要請するとともに患者の搬送を開始し、3月1日には全員の下船を完了した。陽性者総数は3,711名中712名（2020年6月2日時点）、搬送状況は医療機関155か所、搬送人数769名に及んだ。

クルーズ船内は言わば”医療崩壊”の状況となっており、患者は中等症の患者が多く、医療機関に搬送し早期に治療する仕組みが必要であるという課題が浮き彫りとなった。

このクルーズ船の経験を活かして、中等症という医療負荷の高い患者需要に応える医療提供体制「神奈川モデル」を構想し、医療機関、医療従事者、地域等と連携しながら、発展的に実現した。



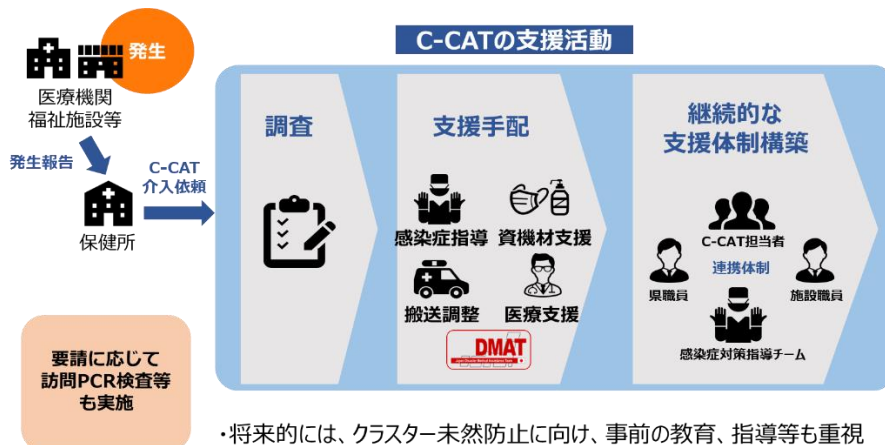
具体的には、重症患者を受け入れる高度医療機関のほか、中等症患者を集中的に受け入れる「重点医療機関」を設置し、無症状・軽症の方には自宅や宿泊施設で療養していただくことで、新型コロナウイルス感染症の患者に対応できる病床を確実に確保している。また、重点医療機関を支援するため、PCR検査の結果が出るまでの中等症の疑い患者の受け入れ、合併症などにより継続治療が必要な患者の受け入れなどの役割を担う、重点医療機関協力病院の整備を進めた。さらに、診療・検査のキャパシティを拡大するため、地域の実情に応じて、医師会や病院協会などの医療関係団体と連携し、集合外来・集合検査場の設置を進めた。

また、2020年5月には、全国初の臨時の医療施設を、湘南アイパーク（藤沢市）内のグラウンドに設置した。

## 3 神奈川コロナクラスター対策チーム（C-CAT : Corona Cluster Attack Team）の創設

上記に加え、医療機関や福祉施設等で新型コロナウイルス感染症のクラスター（感染者集団）が疑われるケースが生じた際に保健所からの要請を受け、医師、看護師など感染症の専門家を現地に派遣して感染の実状調査、感染拡大防止指導、必要な資機材の手配や転院等の搬送支援等を行う C-CAT

(Corona Cluster Attack Team) を創設し、保健所が行うクラスター拡大防止対策を支援している。

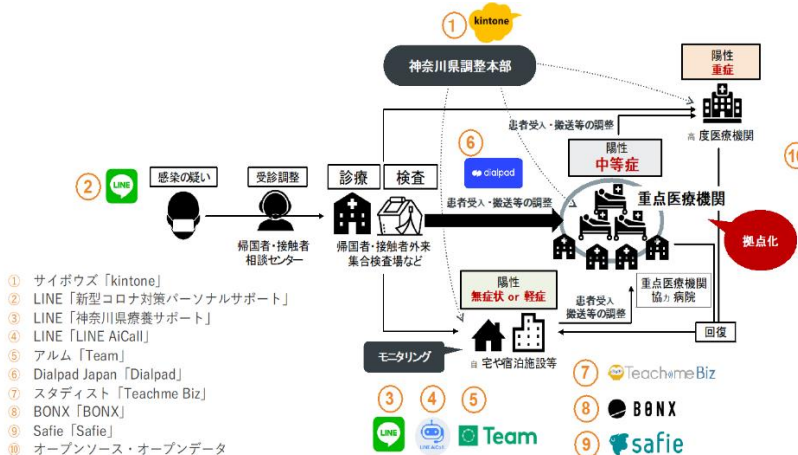


#### 4 データ・ICTの効果的な活用

「神奈川モデル」運用には、多くの方が利用しているLINEをはじめ、ICTテクノロジーを効果的に活用している。

例えば、LINE「新型コロナ対策パーソナルサポート」は、登録した方に、状態に合わせた新型コロナウイルスに関する情報をお知らせするもので、1月末現在、120万人以上が登録している。提供されたデータを集積・分析することで、新型コロナウイルスの実態を把握し、新しいリスクや効果のある行動を把握することも可能となる。

また、宿泊療養施設・自宅療養者向けの「神奈川県療養サポート」では、日々の体調の定期確認について、LINEで回答してもらう仕組みを構築している。



#### 4 今後の取組

今後、新型コロナウイルスに感染した患者の受入れ病床の回転率を高めていく必要があるため、症状が軽くなった方を受け入れてくれる病院を増やす取組みを行っている。また、大学、病院、研究機関などと連携し、県内在住者を対象に抗体保有状況等調査を実施する予定である。

これまで多くの方々に多大なる御協力いただきながら新型コロナウイルスと闘ってきたところであり、これからも、より多くのいのちを救えるよう、神奈川からはじまる未来の医療を皆さんと創っていきたく考えている。